

II 特別シリーズII

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプラン』 友情と感激

第188回

岩手県の活動報告



平瀨英利
(岩手県農林水産部農業普及技術課主任主査)

① 岩手県と雲南省との交流

岩手県は、2013年に「日本国岩手県と中華人民共和国雲南省との友好交流協力協定」を締結し、以降、地方政府間交流をはじめとして、経済交流、青少年交流、教育交流、スポーツ交流、そして農林業交流と幅広い分野での交流を進めてきた。

農林業分野では、2015年に雲南省で開催された「雲南省・岩手県農業シンポジウム」に、県の農林水産部長をはじめとして15名の研究者等が参加し、研究交流が始まった。続く2016年には、岩手県で農業シンポジウムを開催。雲南省から農業研究者等15名を招へいし、薬用植物や環境保全型農業、農業機械利用技術等について交流を深めた。以降、農業シンポジウムは相互開催を継続しており、2017年(雲南省開催)には林業分野(食用キノコ類)での交流可能性を検討、2018年(岩手県開催)には園芸品目・薬用植物・食用キノコ類の栽培技術について、相互の研究者からの研究発表と意見交換を行うなど、着実に交流を深めてきた。

② 雲南省農業科学院

このような交流を継続してきたなか、2018年に雲南省農業科学院からさくらサイエンスプラン(SSP)を活用した若手研究者の研修訪問の打診があった。雲南省農業科学院は、雲南省における農林業の技術開発を担う研究機関である。同院は、食糧作物や花茸、高山植物、熱帯作物、農業経済、農産物加工等々、17の専門研究機関を有しており、広大な

18年に雲南省農業科学院からさくらサイエンスプラン(SSP)を活用した若手研究者の研修訪問の打診があった。雲南省農業科学院は、雲南省における農林業の技術開発を担う研究機関である。同院は、食糧作物や花茸、高山植物、熱帯作物、農業経済、農産物加工等々、17の専門研究機関を有しており、広大な



県庁でのオリエンテーション



岩手農研りんご園場にて集合写真

業における技術的な課題解決に取り組んでいる。研修訪問は、これら専門研究機関のうち、岩手県との交流が進んでいる園芸部門や薬用植物部門の若手研究者を岩手県に派遣し、研究開発の取組等を学ぶ、というものであった。岩手県では、雲南省との交流の一環でもあり、また、雲南省の若手研究者の育成や当県研究者との交流を深める良い機会ととらえ、SSPによる取組を進めることとした。

プログラム	
1日目	来日
2日目	オリエンテーション、岩手県農業の概要説明
3日目	岩手県農業研究センター (概要説明、圃場視察、農業科学博物館視察、果樹研究室、野菜花き研究室)
4日目	岩手県農業研究センター(生産環境研究室、病理昆虫研究室) 岩手県生物工学研究センター(薬草研究、機能性成分研究)
5日目	岩手県農業研究センター東北農業研究所 (概要説明、圃場視察、作物研究室、園芸研究室)
6日目	岩手大学農学部滝沢農場(果樹栽培研究、野菜育種・栽培研究) 産直施設見学(郷土料理昼食) 岩手町薬草生産組合(薬草生産圃場)
7日目	移動日(岩手県→東京都)
8日目	休暇日
9日目	東京都中央市場、茨城大学農学部付属農場、日本科学未来館
10日目	帰国

③ プログラムの成果

今回のSSPでは、雲南省農業科学院の園芸作物研究所から4名、薬用植物研究所から6名、計10名の若手研究者が来県した。岩手県としては初めてのSSPの取組であったことと園芸と薬用植物の2分野の研究者が来県したことから、研究開発等に係る様々な取組を見て学んでもらう、というプログラム構成とした。

来県初日は、県庁においてプログラムの趣旨説明と岩手県農業の概要について説明した。短い時間ではあったが、農村部の高齢化や労働力不足など、両県省の共通の課題を見出し、意見交換が行われた。

翌日からは、岩手県農業研究センター、同センター県北農業研究所、岩手生物工学研究センター、岩手大学等を訪問し、試験圃場等における研究内容について説明を受けた。また、研究者と意見交換を行った。

岩手県農業研究センターでは、県が育成したりんごを実際に試食して評価調査を体験したり、りんごをどう試験圃場では、切り花用の岩手県産りんごと薬用植物用の雲南省産りんごとの違いについて熱心な意見交換を行った。



岩手県育成りんご品種の食味評価



若手研究員も雲南省での研究概要を発表



岩手大学で野菜育種等の研修



薬草生産圃場を訪問

たりするなど、4研究室の研究者と交流する場を設けた。さらに、県北農業研究所では、岩手県における薬用植物の研究内容の説明を受けるだけでなく、雲南省の若手研究者からも薬用植物の本場である雲南省における研究概要について紹介してもらった。相互に刺激を受ける研修となった。

研究機関のほかにも薬用植物を栽培する生産者組織の現地圃場も訪問した。この現地圃場では、雲南省でも栽培されている薬用植物が栽培されており、その栽培方法や雲南省産との系統や品質の違いについて、非常に高い関心を示していた。また、収穫した薬用植物の調製工程管理(洗浄・乾燥・包装等)を見学し、品質管理に対する生産者の意識の高さを目の当たりにしていた。

また、研修の合間には、産直施設へ訪問したり、郷土料理レストランで食事したりするなど、岩手県の農業農村風土を感じてもらった。さらに、研修後はラーメンや回転ずし、新幹線車内での駅弁など、日本の食文化の一端も楽しんでもらった。

このような多様なプログラムにより研修を行ったことで、様々な研究開発の取組について、多くの研究者から説明を受け、多くの研究者と意見交換し、多くの研究者と交流を深めることができたことは、参加者にとって大きな刺激になったようである。

④ 今後の展望

岩手県と雲南省は、これまでの農林業分野の研究交流等を踏まえ、今後のさらなる交流を推進するため、今年4月に「農林業友好交流協力推進に関する協定」を新たに締結した。冒頭に記載した協定とともに、これらの協定に基づく交流が今後も継続される予定であり、相互の農業技術向上や産地形成、そして、研究人材育成など、さまざまな効果が期待されている。そのような中で、今回研修に参加した若手研究者が、やがて雲南省の農林業の研究開発を担い、また、新たな交流の道を拓く人材となつて、両県省の農林業の発展に寄与してくれるものと期待している。